

アメリカにおける精神療法の研修・教育

- 2007年以降、精神科研修医委員会 (Residency Review Committee) では、支持的精神療法、精神力動的精神療法、認知行動療法を必須カリキュラムとしている
(2001年に上記とブリーフセラピー、精神療法と薬物療法の併用療法を必須化、2007年にブリーフセラピーと精神療法と薬物療法の併用療法は下位概念の療法として削減)
- 上級セラピストへの陪席、プロセスノート、録音テープ、録画ビデオを利用したスーパービジョン等による研修を実施
- 研修における評価についても標準化が進んでいる
 - 精神力動的精神療法
 - multiple-choice Columbia Psychotherapy Skills Test
 - 認知行動療法
 - Supervision checklist

(参考)精神療法に関する研修内容の比較

● 日本の精神科専門医 研修プログラム

日本精神神経学会が定めた「研修手帳」に、以下の精神療法技法・領域について、各々の行動目標が示されている。

● 施行できる
支持的
精神療法

○ 経験する
力動的
精神療法
(症例によって、指導医の下で)
家族への疾患教育

○ 理解できる
認知行動療法
森田療法、内観療法
集団力動

● 米国の精神科専門医 研修プログラム

卒業医学教育機構が各研修施設に対して示したプログラム基準に、以下の精神療法技法を習得すべきと示されている。

● 提供できるべき
支持的
精神療法
力動的
精神療法
認知行動療法

個人、家族、集団に対して
短期、長期

他のエビデンスのある精神療法

出典: 精神科専門医制度研修手帳、
http://www.acgme.org/acWebsite/downloads/RRC_progReq/400_psychiatry_07012007_u04122008.pdf

国内で作成された精神医療におけるガイドライン

- 日本精神神経学会
 - 性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第三版)(2006)
- 日本総合病院精神医学会
 - せん妄の治療指針(2005)
 - 静脈血栓塞栓症予防指針(2006)
 - 身体拘束・隔離の指針(2007)
 - 急性薬物中毒の指針(2008)
- 日本精神科救急学会
 - 精神科救急医療ガイドライン 2007年1月19日版
- 精神医学講座担当者会議
 - 気分障害治療ガイドライン(2004)
 - 統合失調症治療ガイドライン(第2版)(2008)
- 厚生労働科学研究費・厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
 - 心的トラウマの理解とケア(2001)
 - 睡眠障害の対応と治療ガイドライン(2002)
 - アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドライン(2002)
 - 摂食障害の診断と治療ーガイドライン(2005)
 - パニック障害ハンドブックー治療ガイドラインと診療の実際(2008)
 - 境界性パーソナリティ障害〈日本版治療ガイドライン〉(2008)
 - 注意欠如・多動性障害-ADHD-の診断・治療ガイドライン第3版(2008) 等

様々な主体が診療ガイドラインを作成しているが、その普及等が課題